

都市の地面の面的記述

地面のデザインに関する研究（その1）

地面 デザイン 面的記述
都市 ランドスケープ 京都

正会員 ○北 雄介*1
 同 門内 輝行*2

1. 序論

1. 1 研究の背景

本研究は都市や建築、そしてわれわれの生活の文字通りの基盤である「地面」について、その総合的なデザイン論の構築を試みるものである。

日本の現代都市は、道路は通常アスファルトに覆われている。道路を挟む歩道にはタイルが敷かれ、その脇の家の庭は土や芝生である。こうした風景が日本の都市の「当たり前」の姿である。また地面は通常ゲシュタルト理論における「地」として沈み、その上につくられる建築こそが「図」となると考えられている。

しかし「当たり前」の状態が規定され、「地」になっているからこそわれわれは、寺社門前の石畳の小路や一面銀世界の雄大な風景に心惹かれるのである。当たり前の地面を疑うことのデザイン効果は大きく、それはモールやランドスケープなどのプロジェクトで実証されている。ましてや地面は、街路歩行時の視野に占める面積が大きく、建築に劣らず重要なエレメントであるはずだ。

よって地面の在り方を問い合わせし、そのデザイン方法を考えることは十分な意義をもつ。特に都市のアメニティが叫ばれ、またスプロール化や人口減少により都市に空地が生じ始めている現代においては、地面のコントロールは都市デザインにおいて大きな課題であると言える。

1. 2 地面論の広がりと本研究の目的

地面に関してはさまざまな領域で研究されてきた。

まず地理学多くの蓄積がある。地質や植生といった意味での地面は自然地理学において、歴史や人々の生活との関連については人文地理学で研究してきた。都市論の分野では、土地利用に関する研究が盛んに進められている。メッッシュデータなどを用いたマクロ分析が主流であるが、土地利用は地面の使われ方の一端を示しており、都市計画上も重要である。人間行動の側面からの研究もあり、たとえばアンダーソンは、都市の地面のアクセシビリティを平面図に描いた^[1]。

地面のデザインに関しては、地形や地質から建築、交通や設備の計画まで包括的に述べたリンチの研究がある^[2]。そして先述の通り、モールやランドスケープのデザインにおいて実践的な知が蓄積されている。

本研究の問題意識は都市と自然、マクロとミクロを横

断するものであり、また特定のデザイナーによる一体的デザインというより、さまざまな主体によって長い間塗り重ねられてきた地面一般のデザインにある。実際の地面がどのようにデザインされてきているかというプロセスを明らかにし、その理解のための理論モデルを提示し、最終的にはどのようにデザインすべきかを示すのが本研究の目的である。

なお本研究における「デザイン」の概念は、為政者や建築家から一般市民に至るあらゆる主体による地面の改変行為を指す。また「地面」についても、建築内部空間の床を含む広義のものとして捉えたい。

1. 3 本稿および次稿の位置づけと研究方法

上述の目的のために、本稿（その1）および次稿（その2）においては、まず具体的なフィールドリサーチを行ない、地面デザイン論の展開の端緒としたい。京都市内の一街区周辺の地面の現状を（その1）において面的に記述し、それをもとに（その2）で考察する。

2. 地面の記述

現代都市の地面のあり方がよくあらわされていると考えられる、京都市中心部の御池通、姉小路通、堺町通、高倉通に囲まれた街区とその周辺を記述の対象とした。2013年3月31日（日）と4月5日（金）の両日に現地調査を行った他、google map (<https://maps.google.co.jp/>) で提供されている航空写真と「ストリートビュー」を参考資料として用いた。なお実測に限界があるため作図精度はやや劣るが、考察を進めるには十分であると考えている^[注1]。

その記述結果を図1に示す。この図は通常の建築図面では余白として残される地面にスポットを当てており、「図」と「地」を反転させた都市の見方を提示している。これをもとに、（その2）において考察を進める。

参考文献

- [1] Anderson, S. : Studies Toward an Ecological Model of the Urban Environment, *on STREETS*, Anderson, S. (ed.), The MIT Press, pp.267-306, 1978.
- [2] リンチ, K. : 敷地計画の技法, 前野淳一郎・佐々木宏訳, 鹿島出版会, 1966.

注釈

注1 今後、道路区域明示図や地積測量図その他の資料を用いて、図を精緻化することが可能である。

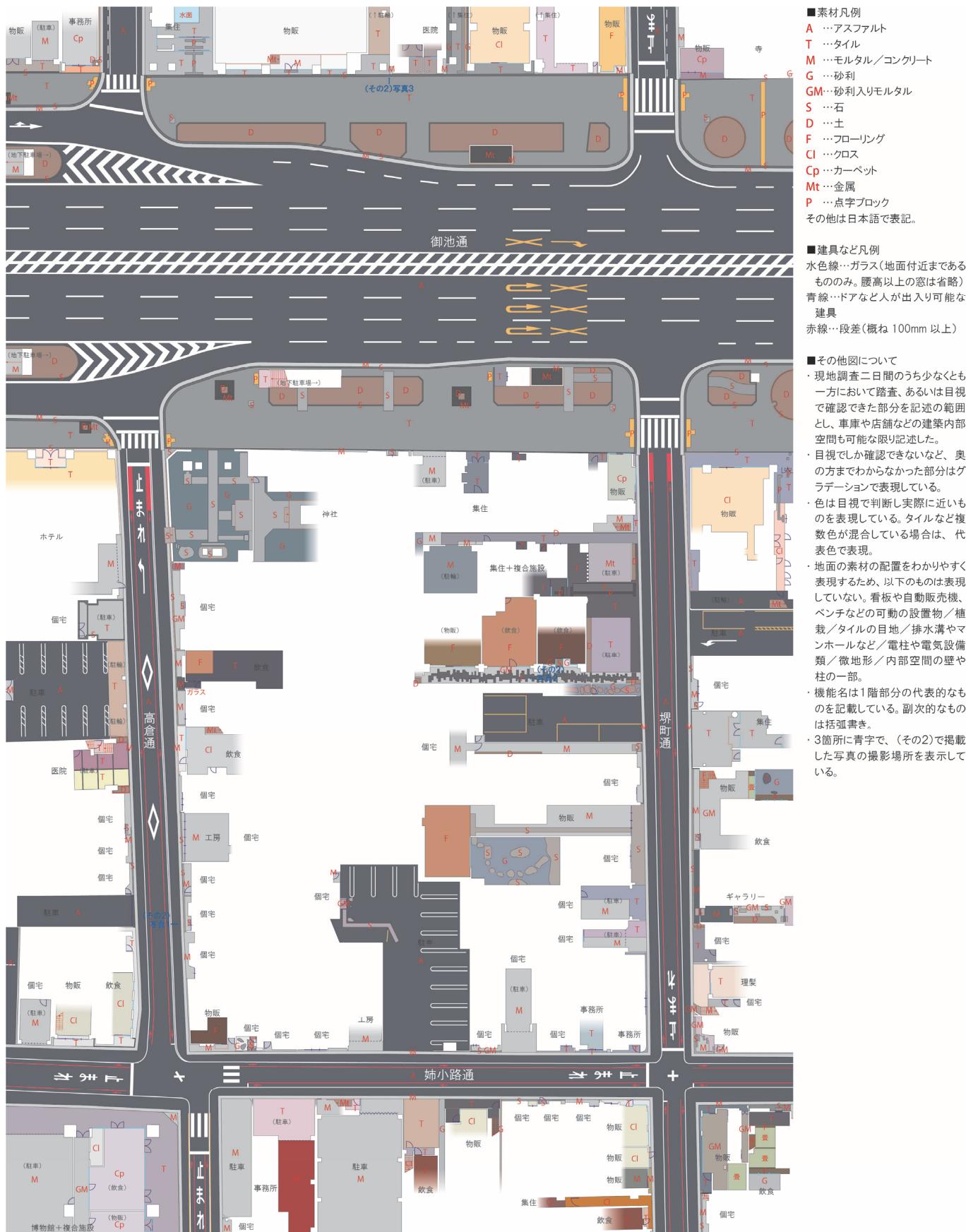


図1 一街区とその周辺の地面の面的記述

*1 京都大学学際融合教育研究推進センター デザイン学ユニット
助教・工博

*2 京都大学大学院工学研究科建築学専攻 教授・工博

Assistant Prof., Unit of Design, Center for the Promotion of Interdisciplinary Education and Research, Kyoto Univ., Dr. Eng.

Prof., Dept. of Architecture and Architectural Engineering, Kyoto Univ. Graduate School of Engineering, Dr. Eng.